親子間のコミュニケーションおよび信頼感が青年期の境界例心性に及ぼす影響

○松下　光希・赤澤　淳子
(福山大学大学院人間科学研究科)

問題と目的

青年期は親への依存から自立へと移行する時期であるが, この時期にも分離不安が生じやすく (片岡・園田, 2010), 見捨てられ抑うつ感を抱くことがある (佐々木・小川, 1994)。見捨てられ抑うつ感は境界例心性の特徴の一つである (江上, 2011)。境界例心性親は養育態度との関連も指摘されている (田村・井上, 2005)。白濱他 (2017) は良好な親子関係を構築する手段にコミュニケ―ションを挙げ, 藤原・伊藤 (2010) は母親との信頼関係が女子の自己受容および他者関係の構築に重要だと述べている。しかし, 親子関係研究において父親を含めた検討は少ない。そこで, 本研究では大学生を対象に, 父親・母親との親子コミュニケーションおよび信頼感が境界例心性に及ぼす影響を検討することを目的とした。

方法

参加者 大学生の男女 77 名 (平均年齢は 22.39 歳, SD = 2.65)。

調査方法 2023 年 10 月に Qualtrics を用いて質問紙を作成し, クラウドソーシングサービスを通じて調査を実施した。

調査内容 フェイスシート (年齢, 性別など), ①親子コミュニケーション: 草田・山田 (1998) の家族コミュニケーション尺度を「父親」「母親」と一部修正して使用した。②親子間の信頼感：酒井 (2005) の親子間の信頼感尺度を使用し, 5 件法で回答を求めた。③境界例心性：江上 (2011) の境界例心性尺度を使用し, 5 件法を用いた。

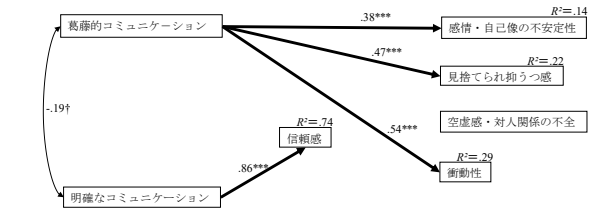
倫理的配慮 この調査は匿名の調査であり, 参加は自由意志によるもので, 途中で回答を中断してよいことを明記した。

利益相反 演題発表に関連し, 開示すべき COI 関係にある企業はない。

結果

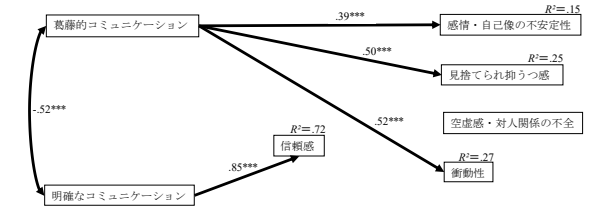
父親・母親についてそれぞれ親子間のコミュニケーションや信頼感が境界例心性に及ぼす影響を検討するためにパス解析を行った。その結果, 両者ともに同様の結果が得られた (Figure 1 ; Figure 2)。

Figure 1
父子間のコミュニケーションおよび信頼感が境界例心性に及ぼす影響



*** p < .001, † p < .10
χ^2 (7) = 5.53, p = .60, GFI = .98, AGFI = .93, RMSEA = .00, CFI = 1.00

Figure 2
母子間のコミュニケーションおよび信頼感が境界例心性に及ぼす影響



*** p < .001, † p < .10
χ^2 (7) = 3.40, p = .85, GFI = .99, AGFI = .96, RMSEA = .00, CFI = 1.00

考察と展望

本研究の結果, 父子間・母子間のいずれにおいても, 葛藤的コミュニケーションが感情や自己像の不安定性を高めることが示された。このことは, 否定的な関わりが感情調整を困難にし (松野・野松, 2015), 親からの温かな関心の欠如が自己像の形成を妨げる (田村・井上, 2005) という先行研究を支持するものである。また, 葛藤的コミュニケーションは見捨てられ抑うつ感や衝動性を高めることも示唆した。親の拒絶は孤独感や不安を高め (Perlman & Peplau, 1981), 孤独感や不安は見捨てられ抑うつ感の形成要因となる(佐々木・小川, 1994)。これらの結果から, 親子間の葛藤的コミュニケーションは感情の不安定性や衝動性といった境界例心性の形成要因となる可能性が示唆された。一方, 親子間の信頼感と境界例心性との関連はみられず, 青年期では親以外の他者との関係性が心理的安定に影響している可能性がある (上野山・岡本, 2018)。そのため, 今後は対象を友人間など他の対人関係にも焦点を当て, 検討する必要がある。